



阿南 ぶらりまち紀行

第156回

「絵本ワールドinとくしま2019」

ふるさと「阿南市」のすばらしい魅力を再発見！

絵本の読み聞かせ



児童文学作家や絵本作家たち



作家と触れ合う

「子どもの読書推進会議」が推進している「絵本ワールド」は、子どもの本のお祭り。2000年の「子どもの読書年」に岡山、静岡、福岡、北海道、大阪、石川の6地域で初めて開催され、その後、全国各地で実施されている。8月17〜18日には、徳島県で初となる「絵本ワールドinとくしま2019」が夢ホール（文化会館）にて開催された。

会場には、1万冊を超える絵本が展示されたほか、児童文学作家・絵本作家による講演や読み聞かせ、トークショー、ワークショップ、スタンプリリーが行われた。また、電子図書館の体験やLaQづくりコーナーなども設けられた。幼児から大人も楽しむことができ、阿南市民に限らず、県内外から、2日間で4000人以上の参加者が訪れた。

生き生きとした筆致の恐竜ペインティングに参加した大和尚矢さん（5歳・橘町）は、恐竜が好きで図鑑やDVDをよく見ており、「CANさんの恐竜の絵入りサインがうれしかった」と満足したようす。ご夫婦で来場し、絵本を選んでいった新居佳孝さん（51歳・徳島市）は「普段の店舗よりも絵本の種類が多く、配置

が見やすい。大人も楽しめ、よく考えられている」と感心していた。

活字離れが叫ばれ、多くの街から書店が減っており、子どもたちの育つ環境も日々変化している。「絵本文化を通して、紙の温かさやぬくもりをお伝えしたい」。ご当地の絵本作家をはじめ、徳島県を日頃から応援してくださっている絵本作家と「絵本ワールド」の企画をスタートした。地元新聞社、地元書店によって組織された実行委員会が中心となり、市内の各図書館、ボランティアなどの力を合わせて運営を行い、陰になり日なたになり思いを支えた。

主催者は、「多数ご来場いただき、予想を上回る反響があった。絵本の魅力を少しでもお伝えできていればうれしい。紙と活字の文化はまだ必要だと思っていただけに、これからも一日、一日を大切に組みんでいきたい」と決意をにじませた。

また、第2回開催となる絵本ワールドinとくしまを検討中とのこと。筆者もいちファンとして、情報解禁を楽しみに待ちたい。



絵本を選ぶ家族



LaQを楽しむ